資料２－２

知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況

１．昨年度の経緯

・2018(H30).9 適正利用・エコツーリズム検討会議にて、ヒグマとの軋轢が深刻・危機的な状況であり、地域合意に基づく人身事故回避策の検討が急務とされた。
・検討の場は知床ヒグマ対策連絡会議（以下「連絡会議」）として、まず斜里町、羅臼町、標津町が各々協議した内容を基に、連絡会議にて検討結果を整理。

＜特に危機的な状況について（主に斜里町）＞
観光客（カメラマン含む）が、ヒグマ観察・撮影のため車道で降車、接近
⇒ヒグマとの距離が近く人身事故のおそれ・渋滞による交通事故のおそれ
※観光客の降車・接近に対する指導に強制力＝法令根拠がない
⇒事故がなくてもヒグマの人馴れを助長＝行動段階を悪化させる
※追い払い労力は増加する一方、効果が見込めない
⇒結果的に問題個体として捕殺対象となる可能性が高い
※科学委員会等からはヒグマではなく人の管理が重要との指摘

＜連絡会議での検討結果＞
・地域の合意が得られている「ヒグマ管理計画」を抜本的に変える必要はなく、今後も当該計画の枠組みの中で、住民意見を反映しつつ進めて行く。

※管理計画及びアクションプランには、考え得る対策が既に網羅されている。
※問題が顕在化している岩尾別地区（町道）においては、ヒグマを見たいという観光ニーズも考慮したシャトルバス社会実験の提案があった。

＜危機的状況への当面の対応方向性＞
管理計画に基づき、連絡会議において関連する対策の検討・実施を加速化
⇒交通事故のおそれもあるため、車道管理の観点から、道路管理者と連携した観光客への注意喚起の強化等を協議。
・道路上でのドライバー等への注意喚起を拡充。
・問題区間での自動車利用適正化（シャトルバス試行等）に係る検討。
・観光客の安全確保（ヒグマによる危険の回避）を最優先するため、出没時の場所・状況に応じて、追い払いよりも注意喚起に一層重点を置いた対応を検討。

資料２－２

２．今年度の主な対応状況

〇令和元年度第１回ヒグマ対策連絡会議

１．日　　時　　令和元年 10 月 31 日（木）13：30～17：15

２．場　　所　　斜里町役場　2 階大会議室

３．出席機関　　環境省、林野庁、北海道、羅臼町、標津町、斜里町、知床財団（オブザーバー）網走開発建設部

４．結果概要　　以下のとおり

■2019 年度第 2 回エゾシカ・ヒグマ WG への準備

・危険事例の大枠での基準を整理する。

・知床半島ヒグマ管理計画目標の達成状況を確認。

・平時と出没時における管理の方策及び、特定管理地における利用者への対応ロードマップについて、今年度実施した事項を確認。資料上での実施年度の明確化を今後検討。

＜アクションプランに関する個別報告内容＞

■方策７・26・S1・S3

利用者や地域住民の安全を確保しながら世界自然遺産の利用の場を確保するため、特定管理地（公園内車道沿線）におけるヒグマ出没時の対応方針について、試験的変更を実施。

【別紙１】

■方策 12

適切・不適切な行動の明示と、利用者が行動を選択するうえで必要なそれらの情報の周知や普及啓発（ホームページ、SNS、パンフレット、拠点施設内の展示の活用）

⇒ウェブ媒体を使った情報発信について

・既存媒体の運営状況の確認

・新規情報発信媒体（Twitter、Instagram）の立ち上げ、効果と課題

■方策 14

野外看板の設置、広報

⇒知床世界自然遺産・登録地内国道 334 号線におけるヒグマ対策について

・ヒグマ普及啓発看板の永久設置、看板の増設、英語表記看板の設置等

・道路情報電子掲示板への普及啓発文言の掲示

・広報誌による普及啓発、道路維持管理中に得られたヒグマ情報の提供

■方策 35
　侵入防止柵・電気柵の整備
⇒斜里市街地周辺のヒグマ侵入防止電気柵
　・令和元年度の整備内容（老朽化対応と運用の安定化）を報告

■方策 36
　住民居住地域におけるクマ対策を意識した家庭ゴミ収集ステーション、収集容器等の普及
⇒ヒグマ対策ゴミステーションの設置について
　・斜里町ウトロ地区に、ヒグマ対策ゴミステーション 3 基設置

【ゾーン 1～4（特定管理地以外）】
■方策 1
　パトロール等を通じたヒグマの出没状況の把握

■方策 2
　不法投棄ゴミやエゾシカ・海棲ほ乳類の死体等誘因物の除去
⇒羅臼町における市街地とその周辺へのヒグマ出没多発の現状と課題、次年度への対策
　・今年度発生した連続飼い犬被害、生ゴミ被害、野生動物の死体によるヒグマ誘因の概要報告とその対策実施状況、今後の課題について確認した。
⇒海獣類漂着時の対応について
　・羅臼町、標津町、斜里町での海獣類漂着時の対応について報告した。
　・斜里町では海岸管理者である北海道建設管理部が対応している経過があるが、羅臼町と標津町では町が単独で対応している状況である。
　・（会議外での内容）今後、北海道建設管理部で本件について扱いを検討することを確認している。その結果を今後当会議で共有する。

■方策 8
　捕獲（駆除、生け捕り）
⇒市街地周辺における銃器の使用について
　・市街地発砲は警察官職務執行法第 4 条第 1 項を適用すれば可能である。しかし、「ヒグマが人間へ直接的に攻撃する寸前」などの厳しい制限によって、適用することがほとんどできず、市街地におけるヒグマ対応が困難な状態である。【別紙２】

・北海道と北海道警察との協議の中で、現場でも使いやすい基準を設けて、緊急性の高い場合には必要に応じて適用できるように協議して頂きたいと 3 町より意見があった。
・ヒグマ対策連絡会議から北海道へ、北海道本庁と北海道警察への協議をお願いした。北海道警察との協議内容等については当会議で共有する。
・羅臼町では町村会からの要望も検討している。

■方策 12
適切・不適切な行動の明示と、利用者が行動を選択するうえで必要なそれらの情報の周知や普及啓発（ホームページ、SNS、パンフレット、拠点施設内の展示の活用）
⇒情報発信に関する 2018 年度の申し合わせに関する 2019 年度の実施状況振り返り
・斜里町と羅臼町のヒグマ出没時の情報発信について報告した。斜里町では事故後、町 HP にて事故の速報、後日に詳細版を掲載した。羅臼町では防災無線やチラシで情報提供した。
・SNS によるリアルタイムの情報発信は、ヒグマが潜んでいる可能性のある危険な現場に人を呼び込むことになり、現場対応に苦慮する状況を生む側面を持つ。情報の出し方によりそれを防ぐことが可能である。今後も情報発信のあり方について、各町で連携していく。

資料２-２【別紙１】

2019 年度　特定管理地（公園内車道沿線）におけるヒグマ出没時の対応方針の試験的変更について

知床財団

●対応方針の変更内容

今年度は、特定管理地（公園内車道沿線）のヒグマ対策活動の対応方法を、ヒグマを人から離す「追い払い」に重点を置いた対策から、人がヒグマに近づかないようにする「情報発信と注意喚起」に重点を置く対策へ試験的に移行した。

前年と今年の現場での対応状況の違い

昨年度：

銃を使用した強度（視界から消えるまで）の追い払い＋利用者への注意喚起（車中への退避等）

今年度：

利用者への注意喚起＋必要最小限の追い払い（路上や車の至近から移動させるなど）（＋事前の情報提供）

※行動段階２や３のヒグマについては、これまでと変わらず知床半島ヒグマ管理計画に記載されているとおり基本的に捕獲を実施。

※知床半島ヒグマ管理計画では、特定管理地で段階１（道路沿い等に頻繁に出没 or 人間をみても逃げない）のクマが出た場合の対応は、「利用者への啓発・指導」と「クマの誘引物除去と追い払い」とされているが、両者の比重までは決めていない。

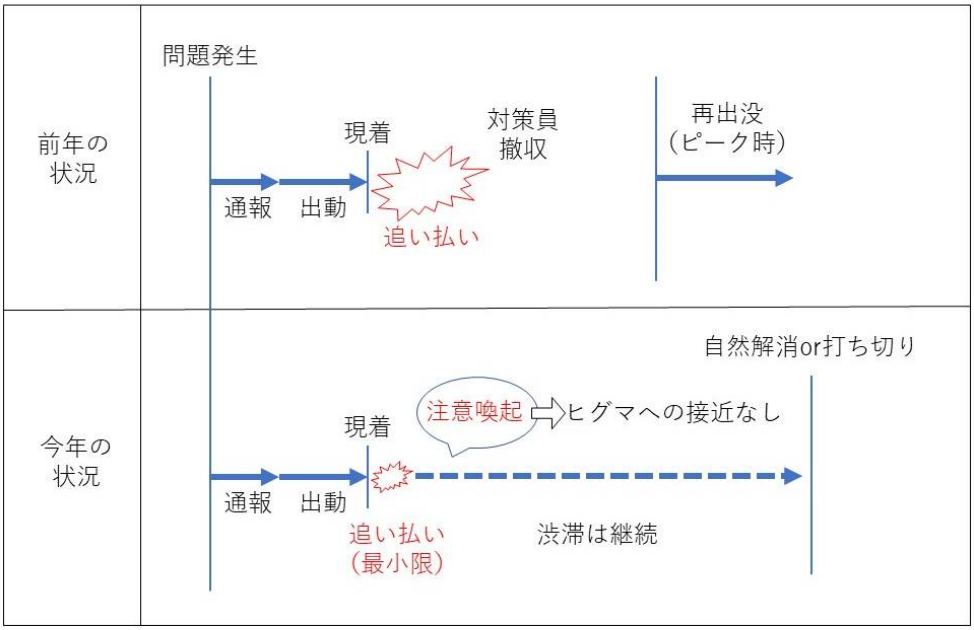

図　ヒグマ出没対応時のフロー図（イメージ）

●結果

（1）2019 年度 9 月末までのヒグマ出没・対応状況

斜里町での目撃件数は 889 件（前年比 38%減)、そのうち幌別岩尾別地区は 395 件、前年比 46%減であった。出動件数で比較しても、今年度の幌別岩尾別地区における対応件数は 300 件、前年比 53%減であった。幌別岩尾別地区における目撃件数と対応件数は、前年と比較して大幅に減少した。

幌別岩尾別地区の目撃件数 395 件に対し、出動した件数は 179 件であった。単純に引き算をすれば出動しなかった件数は 216 件であり、その大半は目撃から 20 分以上経過していたケースであった。

表 1. 斜里町における地区別のヒグマ目撃件数及び出動件数 （2019 年 3 月～9 月 30 日）

地区区分	目撃件数		出動件数	
国立公園内				
幌別・岩尾別地区	395	(−336)	179	(−198)
知床五湖園地地区	286	(+85)	27	(+12)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	36	(−24)	5	(−5)
知床連山登山道地区	29	(−24)	1	(±0)
知床横断道地区	46	(−53)	11	(−32)
知床岬地区	1	0	1	(±0)
小計	793	(−352)	224	(−223)
国立公園外				
ウトロ・オシンコシン地区	40	(−168)	36	(−138)
その他斜里町内	56	(−16)	40	(+3)
小計	96	(−184)	76	(−135)
総計	889	(−536)	300	(−358)

※（）内は前年比の増減件数を示す

（２）利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数の比較

国立公園内の斜里側における、人の問題行動に起因する危険事例を以下の 2 つに分類（図 1 参照）して前年と比較した。

①現場に到着する前に発生していた危険事例

②対策員が現場に到着したあとに発生した危険事例

表 1．危険事例の発生件数の比較

	2018 年	2019 年	対前年差
①	6	15	＋9 件
②	2	1	－1 件

- ✓ 両年とも危険事例が発生した場所はすべて幌別-岩尾別地区、岩尾別地区の発生が多い。2019 年は 16 件のうち 13 件が岩尾別地区。
- ✓ 2019 年、対策員が到着後に発生した危険事例は 1 件であった。内容はカメラマンによるヒグマへの接近であった。
- ✓ ①は前年から大きく増加した。増加の要因としては、ヒグマの出没状況や利用者（カメラマンや観光客）の入込状況の変化が考えられる。
- ✓ 対応方針の変更の前後で、②の発生件数に大きな変化はなかった。

（３）2019 年の幌別-岩尾別地区の状況（詳細）

- ✓ 幌別・岩尾別地区で確認されたヒグマに関係する渋滞（複数台がヒグマ観察を目的に路上に停車し、通行に不安が生じるような状態）は 34 件（5 月 7 件、7 月 3 件、8 月 9 件、9 月 15 件）であった（通報を受けて現地に赴いたが、すでに問題が解消していたケースも含む）。特に 9 月の 3 連休には、連日のように渋滞が発生し、警察にも頻繁に対応をお願いする状況となった（写真１～２）。
- ✓ 岩尾別では 9 月、ヒグマが出没していないときも道道の橋の上（白線外）でカメラマンが三脚や組み立て式の椅子を置き、ヒグマの出没を待っている様子が確認された。対策員は車に轢かれそうになる利用者の姿を目撃しており、ヒグマによる人身事故の発生と同時に、交通事故の発生を懸念する状況が発生した。さらに 9 月後半になると、岩尾別川河口を見下ろす連続カーブに車を停車し、利用者がヒグマを観察する状況も発生した（写真３）。

（４）9 月 3 連休の対応件数・時間の比較

- ✓ 2019 年度 9 月 14～16、21～23 日における幌別-岩尾別地区の道路沿いでのクマ出没時の対応は 16 件、対応時間は計 8 時間 32 分であり、1 件あたりの対応時間は約 32 分であった（表 2）。2018 年度 9 月 15～17、22～24 日における対応件数は 22 件、対応時間は 16 時間 29 分であり、1 件あたりの対応時間は約 45 分であった。
- ✓ 2018 年は 0 歳を連れた親子ヒグマが出没を繰り返していた。今年は 2 頭の亜成獣サイズのヒグマが出没を繰り返していた。各種条件（出没していた個体、サケマスの遡上状況等）が異なるため単純に比較することはできないが、結果的に 9 月の 3 連休中の対応回数や対応時間は減少

した。

表２．2019 年９月の連休中に発生した岩尾別地区でのヒグマ出没に伴う渋滞状況

日付	開始時刻	終了時刻	対応時間	渋滞発生時間	車両台数	カメラマン等
9/13（金）	16:13	17:25	1:12	55	10	40
9/14（土）	9:15	9:30	0:15	無し	14	10
	17:15	17:40	0:25	25	20	20
9/15（日）	9:00	9:20	0:20	無し	3	9
	15:32	16:22	0:50	45	30	30
9/16（月）	9:20	10:20	1:00	無し	12	7
	15:50	16:20	0:30	20	11	18
9/21（金）	10:07	10:30	0:23	既に解消済み	5	2
	13:07	13:35	0:28	10	23	45
	16:00	16:30	0:30	無し	10	2
9/22（土）	9:27	10:20	0:53	20	10	10
	14:45	16:00	1:15	5	12	18
9/23（日）	9:05	9:25	0:20	無し	9	4
	15:00	15:20	0:20	無し	4	0
9/23（月）	9:15	9:50	0:35	無し	5	3
	15:15	15:50	0:35	無し	4	5
		計	591分	180分	182台	223人

表３. 2019 年 斜里町で発生した利用者の問題行動に起因する危険事例

No.	日付・場所	ｿﾞｰﾝ	行動段階	状況概要	問題発生のタイミング
1	5 月 4 日 道道岩尾別	特	1+	岩尾別橋近くの道路から約 3m 離れた場所、落石防護柵の奥に 1 歳サイズのヒグマが出没。車両 5 台程が停車し、渋滞発生。また 5～10 人が降車して撮影。交通整理を実施し、撮影後は車に戻るよう呼びかけた。初動から 30 分が経過したため、撤収。	①対策員の到着前
2	5 月 4 日 道道岩尾別	特	1+	岩尾別橋近くの道路脇に 1 歳サイズのヒグマが出没し渋滞が発生。車両や降車した観光客等と距離が近かったため、追い払いを実施。	①対策員の到着前
3	5 月 4 日 町道温泉道路	特	―	道路法面に単独亜成獣サイズのヒグマが出没。ヒグマから距離 5m の位置に椅子を置いて、観察している人がいたとの情報が寄せられた。また車両 10 台程が停車し、渋滞が発生していたとのこと。	①対策員の到着前
4	5 月 5 日 町道温泉道路	特	1+	岩尾別温泉道路で道路から約 5m 離れた場所に 1 歳サイズのヒグマが出没。車から降車し撮影している観光客 2 組がいたため、注意喚起を実施。ヒグマを道路から遠ざけるため、赤ソリを持って対策員が接近し、追い払いを実施。	①対策員の到着前
5	5 月 5 日 町道温泉道路	特	1+	岩尾別温泉道路で道路から約 10m 離れた場所に 1 歳サイズのヒグマが出没。10 人が車から降車し、撮影。対策員が赤ソリとクマ鈴を持って追い払いを実施。	①対策員の到着前
6	5 月 5 日 町道温泉道路	特	―	ウトロ駐在の所長から、岩尾別温泉道路上で観光客がヒグマへ 1m まで接近しているカメラマンがいたとの情報があった。	①対策員の到着前
7	5 月 12 日 町道温泉道路	特	1	道路法面に 1 歳サイズのヒグマが出没。車両から降車したカメラマンが 10m の至近距離で観察。対策員がクマ鈴とクラクションを鳴らして追い払いを実施。	①対策員の到着前
8	5 月 12 日 町道温泉道路	特	1	道路法面に 1 歳サイズのヒグマが出没。車両 5 台が停車し、3 人が車から降車。車に戻るよう呼びかけ、対策員が乗車していた車のエ	①対策員の到着前

				ンジン音で追い払いを実施。	
9	5 月 12 日 町道温泉道路	特	―	道路法面に 1 歳サイズのヒグマが出没。車両 5 台が停車し、カメラマンに追われていたとの情報があった。	①対策員の到着前
10	8 月 19 日 幌別ポンホロ林道入口付近	特	1	道路法面に 0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。10 台程車両が停車し、降車する人多数確認。	①対策員の到着前
11	8 月 21 日 幌別ポンホロ林道入口付近	特	1+	道路法面に 0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。5 台程の車両が停車し、降車する人もいた。最接近距離は 5m。	①対策員の到着前
12	8 月 30 日 町道温泉道路	特	―	道路法面に 1 歳サイズのヒグマが出没。車から降りてヒグマを追いかけるカメラマンがいたとの情報があった。	①対策員の到着前
13	8 月 30 日 プユニ岬	特	1+	道路法面に 0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。両車線がうまり、通行できない状態となる。スピーカーで停車しないように呼び掛けるが、効果なし。親子グマの真横に停車した車両がブラフチャージされる。親子グマが林内へ移動したため、徐々に渋滞は解消された。	①対策員の到着前
14	9 月 8 日 道道岩尾別	特	1	岩尾別川に単独亜成獣サイズのヒグマが出没。岩尾別橋には観光客およびカメラマン計 20 名以上がおり、ヒグマとの距離は約 20m 程であった。カメラマンのうち、1 名が孵化場入口に張られたトラロープを越えて、ヒグマに接近していこうとしたため、戻るよう注意喚起を実施。	①対策員の到着前
15	9 月 15 日 岩尾別橋	特	1	岩尾別橋付近に単独の亜成獣サイズが出没。約 30 台ほどの車両が停車し、渋滞発生。カメラマン数名が距離 30m までヒグマに接近する状況も発生した。ヒグマと距離をとるよう注意喚起を実施すると、その声に反応してヒグマは人の居ない下流側方向へ移動した。	②対策員の到着後
16	9 月 20 日 岩尾別橋	特	―	岩尾別川下流に単独亜成獣サイズのヒグマが出没。カメラマン 3 名が川岸から川の中にいるヒグマを至近距離で撮影していたとの情報	①対策員の到着前

				があった。	

表 4. 2018 年 斜里町で発生した利用者の問題行動に起因する危険事例

No.	日付・場所	ｿﾞｰﾝ	行動段階	状況概要	問題発生のタイミング
1	5 月 27 日 岩尾別	特	2	0 歳 1 頭連れの母グマが物置に放置された生ゴミを食べる。これをきっかけに母グマは捕殺対象となる。	②対策員の到着後
2	6 月 9 日 町道岩尾別	特	1+	0 歳 1 頭連れ親子が目撃され、カメラマン車輛 10 台弱が停車し渋滞が発生する。	①対策員の到着前
3	6 月 16 日 道道幌別	特	―	0 歳 1 頭連れ親子が出没し渋滞が発生。マナーの悪いカメラマンがクマスプレーとカメラを構えヒグマを追いかけまわす様子が目撃される。	①対策員の到着前
4	7 月 10 日 町道岩尾別	特	1	0 歳 1 頭連れ親子に 3m ほどまで接近し撮影を行うカメラマンが目撃される。	①対策員の到着前
5	7 月 15 日 道道幌別	特	1+	0 歳 1 頭連れ親子が目撃され、見物車両による渋滞が発生。追い払い中に母グマがブラフチャージをする。	②対策員の到着後
6	9 月 3 日 町道岩尾別	特	1	親子ヒグマが目撃され、カメラマン 9 名が車外でヒグマの撮影をしていた。ヒグマの追い払いを実施。	①対策員の到着前
7	9 月 15 日 道道岩尾別	特	―	観光客が降車してヒグマに接近しているという目撃情報。	①対策員の到着前
8	9 月 16 日 町道岩尾別	特	1	ヒグマを目撃した人々が降車してヒグマに接近し、撮影。	①対策員の到着前

写真 1. 2019 年 9 月 15 日　岩尾別橋周辺での渋滞の様子

写真 2. 2019 年 9 月 16 日　岩尾別川に出没したヒグマを撮影する人たち

写真 3. 2019 年 9 月 26 日　岩尾別川河口を見下ろすカーブにおける混雑の状況

資料２-２【別紙２】

市街地等に出没したヒグマへの対応に関する課題について

知床ヒグマ対策連絡会議

ここ最近、全国の報道でクマの市街地出没が頻繁に取り上げられているが、北海道ヒグマ管理計画の地域計画である知床半島ヒグマ管理計画の計画区域内の斜里町、羅臼町、標津町においても、住宅地を含む人の生活圏内へのヒグマ出没が多発している。斜里町を例に挙げると、過去 10 年間（2010～2019 年）に市街地等での捕獲が 17 件発生しており、その都度、地元警察署とも連携をとりながら、対応を行ってきた。

市街地での緊急対応においては、地域住民の安全確保のためには銃器使用もやむなしと判断されるケースも多々あるが、砂川市で発生した事案（警察官立会いの下で銃器を使用しヒグマを駆除した従事者が、許可なしに発砲したと判断され、銃の所持許可取り消し処分となった）をはじめ、市街地での銃器によるヒグマ駆除に関して、その可否がたびたび議論となる中で、現場で対応する従事者の間で不安が広がっており、現状のままでは判断に迷う中で適切な対応が遅れるなど、安全確保に結果的に支障が出ることも危惧される状況となっている。

銃刀法、鳥獣保護管理法、道路交通法等、関係法令を遵守した中で対応することは、言うまでもないが、過去と比較できないほど、人の生活圏内へのヒグマ侵入が多発する中で、警察機関とのさらなる連携協力と、住民の安全確保上、銃器の使用が必須と判断される場合には、警察官職務執行法第 4 条の適用も含め、その使用を認めるなど、現場従事者に不安と迷いを生じさせないよう適切な対応を願うものである。

令和元年 10 月 31 日